

# 天草バラモン凧

あまくさばらもんだこ



「日の出鶴」



バラモン凧は江戸時代の初期、ポルトガルの宣教師とともに伝えられたと言われています。細い竹ヒゴを巧みに組み合わせて作られており、凧の裏側の頭の部分に竹をしならせてひも(藤)を張った「うなり」という弓を付けるのが特徴です。実際に風を受けて大空に舞うと、「ブーンブーン」という大きなウナリ(音)をあげます。

バラモン凧は、長崎の五島や壱岐、平戸、そしてこの天草など、全国的に見ても、九州、それもほとんどが西海岸に限られていると言ってもいいくらい限定された地域にしか伝わっていません。

現在、天草市内では本渡町や志柿町、下浦町、倉岳町宮田、新和町中田や河浦町などで作られています。特に新和町中田の田導寺(たどうじ)地区では、戦中、戦後に途絶えていましたが、代々続いた伝統をなくしてはいけないということで、地区(11戸)で田導寺バラモン凧保存会を作り、伝統を受け継いでいます。

現在、各地区で凧を作られている個人や団体が参加して『天草凧の会』を設立し、伝統工芸を受け継ぎながら、長崎県内の凧の会などとの交流も深めています。